

# ひまわりからの メッセージ

111号

2020. 11. 9.

NPOひまわりの花内  
西濃圏域  
発達障がい支援センター

発行人：中野たみ子

## 晩秋の朝

### 鐘の音を聴きつつ……



最近、年を重ねたせいも、早くに目覚めることが多くなりました。朝の五時、外は真っ暗です。ベッドの上で五時から六時まで読書をするのが習慣になりました。

夏の頃は、隣の空地の草取りに精を出していたのですが、その土地に三軒の分譲住宅が建つことになって、私は草取りおばあさんの職を失ってしまったのでした。

六時になるとお寺の鐘の音が聞こえて来ます。私の住んでいる地区には、私が知っているだけでも寺院は六ヶ所あり、どの寺院の梵鐘なのかは分かりませんが、じっと聴いていると四十秒位の間を置いて聞こえてきます。

私は今、「喚鐘」という本を読んでいます。著者は禅寺に生まれた方で、禅家の道場では、雲水が参禅する時には

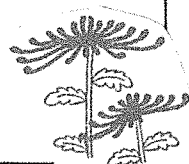
老師が手づから打ち鳴らす喚鐘によって入室し、いわゆる禅問答なるものが行われるのだと記してありました。もちろん私は、仏教にも他の宗教にも縁の浅い人間なのでよく分かりませんが、鐘にもいろいろあるのだなあと思います。NHKの朝の連続ドラマの「エル」では、教会の「長崎の鐘」を取り上げ、鐘の音が被災した人々に希望をもたらしたと伝えられました。鐘には、それを聴く人のそれぞれの思いがあって、希望の鐘であったり、鎮魂の鐘であったり、自己を見つめるための鐘であったりするのでしょう。

ところでコロナウィルスの感染は、冬に向け、又、広がりを見せているようです。コロナ禍は私たち一人ひとりの生活に大きな変化をもたらしました。私の起ち上げたNPOでも今まで共に活動してきた北川さんが退職ということになりました。東京で一人暮らしの娘さんが心配で、度々往復したいとのこと、この小さなNPOで、しかも岐阜県からの委託を受けている立場として長期休暇は難しく、十一月末日でお別れすることにしたのです。十二月からは宮川さんが新たなメンバーとなります。

心機一転！、ヤあ、又、新たな思いで!!

朝の鐘の音は、私に「今日も自分なりに出来ることを精一杯なさいね」という励ましのようにもあります。

庭先では、石路のつぼみがふくらんで来ています。



# 引きこもりに ついて ～8050問題～

「はちじゅうご問題」  
8050問題って何のことですか。と  
言う人はいないと思います。高齢の親  
が壮年期の人を養っている現実です。  
ある時から家族以外の人との交流を断ち  
家に閉じこもってしまった息子や娘を案  
じながら、生活を支えてきた親世代が介  
護対象になって来ている現実があって、  
さて、今後どうしていったらいいのか……と  
途方にくれておられる家族も多いので  
す。

では、そのことは、私たちには全く関係のないことなのでし  
うか？、不登校のお子さん<sup>さん</sup>が全て引きこもってしまうことは  
ないですが、今の生き難い社会では、今後も引きこもりは  
増えていくのではないかと危惧しています。

ところで、「引きこもり」って、どういう定義(?)なのでしょう。  
岐阜県の引きこもり地域支援センターの資料によると、

引きこもりとは、様々な要因の結果として、就学・就労など  
の社会参加を避けて、原則として六ヶ月以上家庭にとどま  
り続けている状態のことで、次の三項目全てにあてはまるよ  
うな状態をいうそうです。

① 六ヶ月以上社会参加をしていない。

② 精神障害を第一の原因としない。

③ 外出しても対人関係がない。(コンビニや自分の趣味のための  
外出をする場合もあるが、家族以外の対人関係がない)

ただし、精神疾患や発達障害が関連していることもあると記  
されています。

果のひきこもり地域支援センターは平成二十八年から活動されて  
いますが、相談者は十代から三十代が多く、年々その数も増えて  
いるということですが、先日、私はセンターにお伺いして話を聞いて  
きました。まず、「ひきこもり地域支援センター」の存在そのもの  
が知られていないのではないかと思います。

センターの活動として次のようなことがなされています。

① 相談支援事業

・ 電話相談と面接相談

・ グループミーティング (家族・本人)

・ 圏域相談会 ・ 地域家族教室

・ ライフプラン学習会 (相続や公的年金など)

・ 医療アセスメント事業

② 人材育成・技術援助事業

③ 普及啓発事業

④ 体制整備事業

皆さんはご存知でしたか。実は私も充分に分かっていませんでし



た。発達障害の子どもたちと関わりながら、義務教育修了後を案じつつ、どうすることもできないまま、日を送ってきたのです。義務教育修了後高校に進んだもののやめてしまった子、通信制やサポート校を選んだものの就労できなかった子、就労しても何度も職を替えて自信を無くした人、……もっと早くに手をうつことはできなかったのか、……という思いがいつもありました。個人情報のこともあり、一体どの位の数の人が引きこもりを続けられているのか、おそらく役所でも把握できていないだろうと思えます。センターの調査では、引きこもり期間が一年未満の人が二十五年までとありましたが、もっと長く家庭におられる人も……と考えると、その人たちの苦しさや家族の方々のお気持ちの大変さをおぼわすにはいられません。

早い段階で教育から福祉へつなぐことはできないのだろうか。少し不安を感じたときに一言福祉に相談して下さったり、中学校卒業後に、「どうしておられますか？」と消息をたずねることができないのではないかと、居場所づくりを考えることができないのではないかと思ったりします。一部屋しかないNPOの狭い空間では居場所にはなりません。そこに行政のかかわりがあれば、違ってくるのではないのでしょうか。

ひきこもり地域支援センターは、支援の課題として次のような項目をあげています。

- ・身近な市町村で相談支援が受けられる体制が必要
- ・市町村単位で社協や生活困窮者自立支援制度の事業において、地域での居場所や家族教室などを拡充し、孤立を防ぐ支援が必要

- ・市町村はハロ五〇問題への対応、ひきこもり課題の潜在化、支援ノウハウ不足など市町村の実情を把握し、関係機関・支援団体等の連携を強化する。

- ・支援者（社会福祉協議会・地域包括支援センター・民間支援団体等）へのスキルアップや連携を図るための後方支援が必要

これを讀むと、各市町での取り組みが重要視されているのがわかります。しかも、どちらかと言うと、ハロ五〇問題を強く意識しているようです。もちろん、それは大切なことです。けれども私が長く関わってきた発達障害に関しても思うことなのですが、今、当面取り組むべき喫緊の問題と同時に、今後を予測した対策を進めていかなくてはいけないのではないかと、いうことです。発達障害の子どもたちが育ちの中でねじれを起これ、反抗挑戦性障害や強度行動障害になっている現実に対する施策と同時に、幼児期からの子育てや教育支援の大切さを徹底させていくという、いわゆる予防的措置が考えられていく必要があると思っております。

就労しても、上司から一度にいくつも指示されると覚えて  
いられない人、同僚から「それが終わったり、次これをお願い  
します。」等次々言われると、パニックになる人、上司から頼ま  
れた書類が目の前にあるのに探し出せない人、時間内に仕事  
がこなせない人、目の前のことに集中すると周りが見えなくな  
ってしまう人、決められたことはできるけれど臨機応変が難し  
い人、人の話の輪に入っていくけない人等々困ることが一杯ある  
と思います。でも、そういうことって小さい頃から少なからずあ  
ったのではないだろうか。周囲も本人自身も気づいてはいて  
も、そのうちに何とかなるだろうと思っていたということもある  
のだろうと思います。

小学校から中学校への引きつぎの時、名前が消えている  
子の中に、「いえ、このお子さんは引きつぎ見守っていてあげ  
て欲しいです。」と思うケースが何人もあります。中学校でも  
「勉強がんばっていますから……」「今、何も問題ありませんか  
ら……。」と言っていただけるのは有難いのですが、本当はこれか  
らが大変なのにと、心配が増幅していきます。そして、義務教  
育が修了すると、その子たちはおそろく支援の綱目から脱  
け落ちていくのです。

引きこもり予備軍かもしれない子どもたちに、どの様に手  
を差しのべていくのか、皆の問題として考えていかなければい

けないのではないだろうか。教育と福祉の連携は欠かせません。  
それに私には、もう一つ心配ごとがあります。

色々な方の相談を受けていると、登校を嫌がるという相談の中で  
「この子は心配だな……。」と思うことがあります。それは、ユーチューブ  
やゲームに夢中で生活のリズムが崩れてしまっている子たちで  
す。両親は働きに出てしまうので「昼間どうしているのか分か  
らない。」と言われることもあり、学校で何か辛いことがあつて  
休むのは仕方のないことかもしれませんが、自分の好きなことを好き  
なだけやっても許されるという生活はどうなのでしょう。

ハロ五〇問題の方たちが「これではダメだと思っっているけれど  
どうしたら良いのか分からない。」と言われるのと違つて、今の子ど  
もたちには家で好きなことができるという状況があつて、今後は  
今までは違った引きこもりの様相が起きてくるような気がし  
ます。欲求不満に耐えられない子どもたちを育てている親さん  
たちにも、親としての踏んばりどころはきっとあるはずだと思うの  
です。中学生になつてから、「どうしたら良いでしょう。何とかなりま  
せんか。」ということになる前に、幼児期から家庭のルールを作つて  
おき、子どもとの約束は必ず守れる大人でいたいし、子どもにも  
守らせていきたいものです。

### お知らせ

十二月の親の会会場もスイトピア5F創作学習室です。

